

埼玉親善大使レポート

三木貴弘

留学先：フィリピン・バギオ

1. はじめに

私はフィリピンの語学学校「Baguio JIC プレミアム校」において、スピーキング力向上に特化したコースで 1 ヶ月間の語学留学を行いました。留学の目的は、発音やイントネーション、自然な会話力を体系的に高め、実践的な英語運用能力を身につけることでした。これまでの英語学習では、文法や読解は得意な一方で、発音や流暢さに課題を感じていました。将来的に国際学会で研究発表を行い、海外研究者との議論に臨むためにも、スピーキング力の強化が不可欠だと考え、今回の留学を決意しました。

留学中は、自分の英語の癖や弱点を客観的に把握し、論理的で説得力のある表現を習得することを目標としました。また、現地での生活や他国の学生との交流を通じて、多様な価値観に触れ、自分自身の殻を破る機会にしたいと考えていました。

2. 留学生活の概要

バギオに到着した初日、フィリピン特有の山道や交通事情に驚かされながらも、思っていた以上に涼しい気候と穏やかな空気に安心感を覚えました。寮は予想以上に広く、必要な設備も整っており、共同生活にもすぐに慣れることができました。

授業は毎日、マンツーマンレッスンを中心に行われました。初日のレベルテストでは、スピーキング力の不足を痛感し、思うように話せず悔しい思いをしました。しかしその経験が大きな刺激となり、「必ず英語で自分の考えを伝えられるようになる」という強い意志が生まれました。

初週は英語漬けの生活に慣れるまで大変でしたが、発音矯正やディスカッション授業を通じて、徐々に会話のリズムやイントネーションの感覚を掴めるようになりました。授業外では、校内のジムで体を動かしたり、カフェテリアで他国の留学生と食事を共にしたりと、生活面でも充実した日々を送ることができました。

3. 現地での学びと成長

2 週目以降、英語を話すことに対する抵抗が薄れ、授業中も積極的に発言できるようになりました。特に印象に残っているのは、発音やリンク（音の連結）を学んだ授業です。先生が細かく口の形や舌の位置を指導してくださり、英語を

「音」として捉える感覚を身につけることができました。TED Talk を題材にした授業では、自分の苦手な発音を何度も矯正され、英語が「通じる言葉」に変わる喜びを実感しました。

また、プレゼンテーションやスピーチの練習を重ねる中で、自分の思考を英語で整理し、聴き手に伝える力が向上しました。特に、行動経済学をテーマに発表した際には、先生や他国的学生から多くの質問を受け、即興で英語を使って応答する難しさと楽しさを味わいました。最初は緊張で声が震えていましたが、練習を重ねるうちに自然なトーンで話せるようになり、自信を持って人前で英語を使えるようになりました。

休日には、現地の文化にも積極的に触れました。地元の大きなショッピングモールやナイトマーケットでは、活気ある雰囲気や人々の温かさを感じました。ジプニーと呼ばれる公共交通機関にも挑戦し、混雑や独特の支払い方法に驚きながらも、現地の生活を肌で感じることができました。

また、週末には世界遺産都市「Vigan」を訪れ、フィリピンの歴史的建造物や陶芸体験を通じて、スペイン統治時代の文化的影響を実感しました。この旅行では、台湾・韓国など多国籍の仲間と交流することができ、異文化理解の重要性を改めて学びました。

4. 埼玉県の PR 活動

留学期間中は、埼玉親善大使として埼玉県の魅力を積極的に発信しました。授業やカフェテリアでの会話の中で、川越の小江戸文化や狭山茶、クレヨンしんちゃんなどの話題を通じて、埼玉の特色を紹介しました。特に川越の話題は多くの留学生の関心を集め、「いつか行ってみたい」と言ってもらえたことが嬉しかったです。

また、私が在学している埼玉大学での研究活動や国際交流の取り組みについても紹介し、「国際的な交流に力を入れている」ことを伝えることができました。英語で自分の故郷を説明することは難しかったですが、その過程で語彙力や説明力を磨く良い機会になりました。

5. 留学を通じて得た学びと今後の展望

この1ヶ月間を通して、最も大きな収穫は、「英語を学ぶことの楽しさ」と「挑戦する勇気」を得たことです。最初は失敗を恐れて黙ってしまうことが多かったのですが、異なる文化の仲間たちが互いに励まし合う姿を見て、自分も積極的に話しかけるようになりました。その結果、多くの友人ができ、文化や価値観の違いを超えて心を通わせることができました。

また、英語を通じて「自分の考えを伝えることの重要性」を強く感じました。

発音や文法だけでなく、自分の意見を相手に伝える姿勢こそが、国際的な場で求められる力であると実感しました。今後は、今回の経験を活かして12月の国際学会での研究発表に挑みたいと考えています。さらに、留学で得たスピーキング力や学びを共有するため、まずは研究室のゼミで発表を行い、その後、理系学生にも留学や語学学習の魅力を広めていく予定です。

この留学を通じて、埼玉県の国際交流を担う一員としての責任も実感しました。今後も大学や地域の国際交流イベントに積極的に参加し、埼玉の魅力を海外に発信していきたいです。そして、将来は英語力と専門知識を活かし、国際的に活躍できるデータサイエンティストとして社会に貢献したいと考えています。

6. おわりに

今回の留学は、語学力の向上だけでなく、自分自身の価値観を広げる貴重な機会となりました。文化や言語の壁を越えて交流することの難しさと楽しさを実感し、「英語を通して人とつながることの喜び」を知ることができました。

この経験を糧に、今後も学びを継続し、埼玉県の代表として国際社会に貢献できる人材を目指して努力を続けていきます。



写真1: Viganの街並み



写真2: バギオの道路